

## 水野教育長記者会見概要

日時：令和6年9月20日（金）15時05分～15時35分

場所：大阪府庁別館6階 委員会議室

### 【水野教育長より】

#### 教育委員会の取り組みについて

みなさん、お疲れ様です。先日とても綺麗なお月さまが出ていましたが、皆さんはご覧になられましたか。中秋の名月を見て、いよいよ秋だなと思ったのですが、今日のこの暑さは大変、体にこたえるところではありますが、記者の皆様もご健康にご留意されて、引き続きどうぞよろしく願い申し上げます。

#### ①府立博物館 秋季特別展の開催について

府立弥生文化博物館と近つ飛鳥博物館の両館で、10月5日土曜日から12月8日日曜日までの間、秋季特別展「発掘された日本列島2024」展を合同開催いたします。

この展示は、毎年、文化庁の主導のもと、近年の発掘調査成果の中で、特に注目された遺跡や出土品を取り上げ、全国各地の博物館を巡回するもので、今回が30回目の節目となります。

大阪府内では10年ぶりの開催となる今回は、北海道や東日本の遺跡を中心に出土した540点に及ぶ、旧石器時代から江戸時代にわたる幅広い時代の資料を展示いたします。

北海道で出土の縄文時代の土偶や、群馬県出土の鶏形埴輪など、関西では普段見る機会が少ない資料をじっくりとご覧いただけます。

この展示に合わせ、開催館が企画する「地域展」も同時開催いたします。弥生文化博物館では、今年の干支である「辰」にちなみ、「大阪に伝来した龍」と題した展示を行います。

池上曾根遺跡出土の「龍」が描かれた絵画土器など大阪府内の考古資料、民俗資料等をもとに、古代中国で生み出され、弥生時代に日本列島に伝来し、今も地域に息づく、想像上の生き物の「龍」とその源流に迫る企画です。

また、博物館周辺に広がる一須賀古墳群が、国の史跡に指定されて30周年を迎えた近つ飛鳥博物館においては、「一須賀古墳群と渡来人」を開催いたします。「ミニチュアの炊飯具」や「金属製装身具」等の出土品や研究成果をもとに、朝鮮半島からの渡来人や、渡来人に関わりの深いとみられる被葬者をより詳しく考える機会となることと思います。

両館とも展示期間中に講演会や現地見学会など、様々なイベントを行っておりますので皆様のご来館を心よりお待ちしております。

## ②「第17回 あなたのおすすめ 本のPOP広場」の開催について

文化庁が17日に公表した2023年度の「国語に関する世論調査」におきまして、漫画・雑誌を除く書籍を1冊も読まない人の割合が62.6%と、読書離れが進んでいることが判明いたしました。

府民の皆様の本に親しんでいただきたいという思いを込め、府立中央図書館では、10月11日から「第17回 あなたのおすすめ 本のPOP広場」を開催いたします。

府内に在住、通学する中学生、高校生がおすすめの1冊について、1枚の小さな紙に、絵やメッセージで、その本の良さを伝えたPOP作品を披露いたします。

今年度も多くの本と出会い、新たなお気に入りの1冊を見つけていただくことを願って実施したところ、9月11日時点で、中学生の部で700作品、高校生の部で316作品と数多くのご応募をいただきました。

これら全ての作品を11月10日まで展示し、11月23日には広報担当副知事の「もずやん」もご列席の上で表彰式を行います。

展示期間中には来館者の方々に一票を投じていただく投票も行います。読みたい本が見つかる、力作ぞろいのPOP作品をご覧に、ぜひ中央図書館までお越しください。

## ③講師登録説明会の開催について

府教委におきましては大阪府内の公立学校講師としての勤務に興味をお持ちの方を対象に、講師希望者登録説明会を開催いたします。

説明会は3回予定しておりまして、10月9日の水曜日に三島府民センターにて、10月15日火曜日と21日月曜日に大阪府庁新別館にて開催いたします。

ホームページから参加申し込みの受付を開始しておりますので、ご都合の良い日時・場所でぜひご参加ください。

また、7月のこの記者会見でもお伝えしたとおり、教職から長く離れている方を対象とした教員スタートアッププログラムを、9月12日の木曜日に開催いたしました。申し込み時点から大変好評で、当日は38名の方にご参加いただきました。

教員スタートアッププログラムの3回目は、11月4日月曜日に大阪学院大学にて開催します。こちらも参加申し込みを受付中ですので、ぜひご参加ください。

## ④大阪府教育庁ホームページの更新について

記者の皆様の中で、この大阪府教育庁のウェブページもご覧になられてる方がおられるかもしれません。ホームページを、生徒や保護者、府民の皆様にご覧いただきやすいように、9月4日にリニューアルいたしました。

リニューアルの内容は、「府立学校一覧」や「公立学校の教員採用」など、閲覧数の多い項目を大きなアイコンで示し、毎月の注目情報を、短い動画にまとめて掲載しております。ぜひご覧ください。

また、「教育長の部屋」を設け、この記者会見の様子や、最近の私の学校訪問の様子もそちらで掲載をしております。

このウェブページに関しては私が就任以来、これは変えていかないといけないという話を庁内で議論を進めておりました。その中で私が事務局の皆さんにお伝えしたのが、このウェブページというのは、365日24時間、文句も言わず働いてくれる優秀な営業マンであること。それに対して、やはり適切な投資をしていかないといけない。そのような思いで事務局の皆さんと議論を積み重ね、年度途中ですが9月4日からリニューアルしました。

今後もこの大阪の教育の取り組みについてホームページやSNSを通じて、府民の皆様に積極的な発信をしてまいりますので、できれば報道各社の皆様からも、「もっとこういうふうにしたらいいのではないか」、「ここは府民の皆さんが興味をお持ちだから、もう少しめだたせた方がいいのではないか」などのご意見もいただければありがたいです。

#### ○教育長による学校訪問

教育長による学校訪問としまして9月18日に守口支援学校を訪問しました。また、教育長の表敬訪問として、西野田工科高等学校定時制課程の3年生が、「全国高等学校定時制通信制陸上競技大会」の男子円盤投げで優勝し、表敬訪問をしてくれました。

また、泉尾工業高等学校ファッション学科の3年生2人が「全国高等学校ファッションデザイン選手権大会」にて、全国優勝されて、表敬訪問にお越しいただきました。

#### 【質疑応答】

#### ○万博無料招待事業（子ども専用列車関連）

（日経新聞）

先日、大阪メトロで子ども用列車の概要が更新されました。開幕から夏休み前にかけて、「平日午前に約2時間」ということで森ノ宮から夢洲までの所要時間が短くなり、あるいは森ノ宮まで少し距離のある学校の子供たちが、その途中駅で乗れるようになるという改善点も見られたかと思えます。この辺りの所感と、あと10月中旬に実施を予定している学校への意向調査について、スケジュール感を改めてお願いいたします。

（水野教育長）

やはり安心安全に子どもたちが万博会場に行ってほしいと、我々は当然願っておりますので、どういう形で実施するのがいいのか、実際に現場のお声も聞いた上で、博覧会協会に要望を続けてきた立場ではあります。その中で、大阪メトロの方から、子ども優先列車というアイデアが最初出てきたときも、「それならばもっとこうした方がいいのではないか」という意見は我々当然持っておりましたので、そういった適切な場において、それも要望してきました。

長田駅経由で来るとなると、さすがに小学生で50分もトイレに行けない中で、列車で行くのは厳しいのではないかというご意見も聞いておりました。そのあたりを今、公表されたような形に改善していただいたことは、やはり感謝申し上げるとともに、それでももっとこうした方がいいのではないかという意見は、我々の方にも上がってきたりもしていますので、安心して来ていただけるように、ぎりぎりまで要望を重ねつつ、はたまた各学校、市町村にも説明を丁寧にしていかないといけないと受け止めています。

## ○入試制度設計のスケジュール感について

(ABC)

府立高校の入試改革の件でお伺いします。入試を前倒しするなど、改革に向けた協議が進んでいると思います。お話しいただける範囲での進捗具合と、また、スケジュール的には早くても令和8年度からと聞いていますが、想定されるスケジュール感は今どのような感じなのか教えてください。

(水野教育長)

学校教育審議会の答申の内容をふまえて、「この内容はやはり、周知の期間をたくさん要するだろう。」「この内容に関してはもう少し庁内で制度設計の議論の必要がある。」「これは影響の多いものなので、調整が各所との調整が必要だろう。」「これは今年度からでも可能なのでは。」など、それぞれグラデーションのある内容が出ていると受け止めております。

その中で、今ご指摘のあったような、例えば入試に直結するスケジュールの件、特色入試の件などに関しては、この場においても、「最短で令和8年度である」と申し上げてまいりました。

この理由に関しては、周知の期間が必要であると考えたとき、少なくとも、1年半は必要なので、最短で令和8年からと答えてまいりました。

庁内議論が進んでおりますので、いつからのスタートになるのかというのは、近日中に皆様にもお示しできるかと思っておりますので、今しばらくお待ちいただければと思います。

## ○私学側の意見による入試改革に向けた協議への影響について

(ABC)

私学からは反対の意見も出ているかと思いますが、反対意見を受けて、入試改革への協議に何か影響があるのかどうか、お伺いします。

(水野教育長)

大原則として、これは府立高校の入試のことですので、当然決定権は我々大阪府教育委員会で決めていくところです。従前から申し上げているように、入試というのは、当然私学だ

けではなく、むしろ中学校、中学生、その保護者にも影響があることですので、そのあたりのお声をしっかり聞いて、議論に反映させていきます。

### ○入試改革に向けた協議において、意見をどのようにして吸い上げていくのか

(毎日新聞)

中学校や保護者の声をしっかりと聞いていくというご発言がありましたが、今後どのような形で意見を吸い上げていくのか、何か具体的に決まっていることがあれば教えてください。

(水野教育長)

本来、最終決定をするところから逆算し、お話をするのが筋ですが、当然パブリックコメントという方法もございますし、例えば都市教育委員長協議会さん、町村教育長会さんなどの、市町村の代表の皆様からのお声は、当然、各会議体から聞いていきます。

また、私学との連携会議もございますので、既にある会議体において聞き取っていく準備はあります。それをどのタイミングで、どういう形で組んでいくのかは、先ほど申し上げたように、「この入試制度をいつからスタートしていきます」と、一定お示ししてから組み立てていくことにはなろうかと思えます。

(毎日新聞)

そうすると、府教委の方である程度、「こういう入試制度にします」という答えを出した上で、それに対する意見聴取という形になるということでしょうか。

(水野教育長)

あくまで叩きにはなると思えます。「どうでしょうか？」と出しても、それでは議論はできませんので、あれほど学校教育審議会で、ご意見が出た答申をいただいておりますので、「これで決定案ですので、ご理解ください。」というものではなく、「こういう形で考えておりますが、ご意見いかがでしょうか。」という形になると思えます。

(毎日新聞)

すると、そういう意見聴取や、そういったスケジュール感も近日中に示されるという理解でよろしいでしょうか。

(水野教育長)

まず、その学校教育審議会の、先ほど申し上げた入試にかかる部分で言うと、一般入試の一本化のところには結構大きい影響が出ますね。あとはアドミッションポリシーの入試枠の議論も出ておりました。これも入試制度としては大きいことだと思います。

そして、複数校選抜に関しても、影響の大きいところですが、この3点に関しては、早めに、「この時期からスタートするので、それまでの期間を周知や議論の期間としてしっかり使えます。」という出し方になるかなと思います。これを近日中にお示ししたいと思いますので、ご質問にあった、「どういうプロセスで、どういう段階で」というのはその後の話と、ご理解ください。

(毎日新聞)

ありがとうございます。近日中に、そういう形で示されるということですが、それはどういった形になるのか、書面なのか、こういった会見の場での形になるのか、どういった形で示されるのでしょうか。

(水野教育長)

議会などのスケジュールを加味し、我々のプロセスをふまえて、「この段階では」というところで、ご理解いただければありがたいです。

## ○公私連携会議における私学側の反対意見を受けて

(毎日新聞)

先日の公私連携会議では、私学側からも強い反対の意見と伺いますか、「入試日程を前倒しされるのであればうちも前倒ししますよ。」「専願と併願の今のシステムを変える必要が出てくるかもしれない。」といったお話もありましたが、そういった声も教育長にも届いてると思いますが、それについて教育長としてはどのように受け止めていらっしゃいますか。

(水野教育長)

やっぱり私学さんは、建学の精神に基づいて教育をなされており、入試のあり方についても我々が「こういう入試をなささい。」と言える立場ではないという認識ですので、それぞれにお考えがあつてしかるべきかと、まず思っております。

それと同時に、先ほど申し上げたように、府立高校の入試は、私学さんが決めることではなく、我々が当然決めていくことです。

しかしながら、私は大阪府教育庁という組織の長ですので、私学さんと府立高校設置者としての両方の管轄ですので、そのあたりをうまく調整をしていかなければならないと思っています。

ただ、私学さんがおっしゃっていること、例えば、「公立入試を前倒しというより一本化ですので、一本化をした影響を考えて、より早く入試をしていくんだ。」ということも、全ての私立さんがそう思っているのかどうか、私立といってもたくさんいろんな学校がございますので、とある高校に関してはそうおっしゃってるのかもしれないけれども、とある高校は別に気にしていないのかもしれないなど、正直全てのお声までは把握できておりませ

ん。

### ○万博無料招待事業（森ノ宮駅の待機場所について）

（毎日新聞）

子ども専用列車の件です。先ほどの教育委員会会議の中で、補正予算の枠組みの中で、森ノ宮に待機場所を設けるということでしたが、こちらの詳細について可能な範囲で教えてくださいませんか。

（水野教育長）

仮に、森ノ宮の駅に待機所のお話がなかったとすれば、5月の意向調査で一定、バスを利用する団体とメトロを利用する団体の上限値は把握をしたつもりでおります。すると、森ノ宮経由で利用する方がおそらく多いという見立てがあります。そうすると、森ノ宮駅の構内があふれ返る恐れがある。まず、こういう課題意識を持っておりました。

では、どうしていくのかとなると、構内であふれることもですが、当然地下鉄が通りますので、やっぱり危ないです。ですので、森ノ宮駅の地上にある大阪城公園の敷地の中で、子どもたちが安心して待機できる場所を作っていく必要があります。

しかし場所を作っても、時期によっては今日のような暑さになると安心安全とは言えませんので、暑さに対して、一定子どもたちの熱中症のリスクを下げていく、安心安全の可能性を高めていく、そういうしつらえが必要であろうという補正予算の要求を今検討している状況です。

（毎日新聞）

ちなみにその施設自体は、屋外の施設の屋根付きのような、何か日向は避けられるような感じでしょうか。

（水野教育長）

もちろん熱中症を考えたら、日陰をどれだけ確保するというのは、その場所の問題もありますが、現段階では、プレハブのようなものを作るというイメージではないです。

（毎日新聞）

ある程度、暑さをしのげるような屋外施設、屋根付きみたいなものを想定してらっしゃるのでしょうか。

（水野教育長）

そうではありません。今まだ補正予算の要求段階ですが、警備員さんをちゃんとそこにつけておいたり、簡易のトイレをしっかりとセットしておいたり、場合によってはミストであ

ったり、その集合待機場所を、例えば木陰のあるところにするのであるなど、今現段階ではそういうイメージです。

あくまで今、完璧にこういう形で設計ができているというものではなく、大阪城公園で熱中症対策と、交通上の安心な場所を確保する必要があるという補正予算の要求になっています。

(毎日新聞)

ちなみに何人ぐらい収容、待機できるような場所というイメージですか。

(水野教育長)

今、細かい数字は持ち合わせていないので、ぜひ窓口担当の方に聞いていただきたいと思います。一定の数字はお出しできるかなと思います。ただ、時期にもよります。5月の金曜日は、意向調査の結果としては結構集中していますので、「5月の金曜日はこのぐらいの人数だけれども、例えば6月の火曜日だと、実はそんなに大阪城公園まで溢れてないかもしれない。」など、結構、日によって違うという点は説明させていただきます。

#### ○万博無料招待事業（参加日による混雑状況の偏り）

(毎日新聞)

となると車混雑が予想される日に、そっちに避難ではないですが、使ってもらおうというイメージですか。

(水野教育長)

常にその用意はしておきますが、溢れ具合が月によって違うというのが、実際実行する我々側からすると、気をつけなければならないところ、ちゃんと予測を立てないといけないところですので、細かい数字に関しては、ぜひお伺いしていただければと思います。結構、差があるということです。

(毎日新聞)

「何日だと、これぐらい来る」といった数字が以前、協会などとの会議の中で出ていたと思います。その数字が結構、日によって偏りがあったかと思いますが、できるだけ偏りがないようにするのが、交通上は一番いいとは思いますが、その辺りを今ならしていくようなことというのはされてるのでしょうか。

(水野教育長)

交通上でいえばおっしゃる通り、ならしていくのが我々としても一番安心ですが、やはり、今回何のためにこれをするのかと考えたとき、子どもたちが万博に行って、未来にわくわく



していく高い教育効果があるから連れて行きたいという先生方の思いを一番に考えていきますと、偏りをならすこと以上に学校現場がカリキュラム上、行きやすいタイミングで来ていただくということを、やはり主眼に置かないといけないと考えています。

ただ、そこを主眼に置くと、先ほど申し上げたようなばらつきが出てくるので、その調整はこれからも引き続き鋭意進めていくというところです。

(毎日新聞)

最大限、学校側の希望は尊重していく形で、どうにか折り合いをつけていきたいということですか。

(水野教育長)

そうですね、尊重しながらも折り合いをつけていかないといけない。

## ○万博無料招待事業（学校側の下見の希望について）

(共同通信)

万博の無料招待事業に関連して、先日報道で教職員の有志の団体の方々が、府議会に対して下見を希望する時期にできるようにしてほしいといった一連のその請願をされたと承知しています。

一義的には協会との交渉が必要になってきますが、現状どの程度、府教育庁として対応可能なのか、あるいはその議論の進捗状況など伺えればと思います。

(水野教育長)

やはり学校現場の声としては、「下見をしたい」、「下見をする必要がある」というのは、私としては大変理解ができるものです。

下見に関しまして、団体規約の中でキャンセルの件などが含まれていることに対しての請願の内容であったかと理解をしています。私としてはやはり下見に極力行きやすいようにしてほしい。ゆえに、そのような立場で要望をしていく、そういう形ではあります。

ただ現段階において何か良い結果が出たかという公表できるものではありませんので、これからも引き続き、そういうお声も聞きつつ、進めていきたいと思っております。

(共同通信)

現段階ではまだ決まったものはないということですが、今後、仮にその要望・請願に沿うような形、あるいは教職員さん、現場の声を尊重した結果、対応をするとなった場合に、何らか予算的なもの、費用面で府として負担が増える可能性というのはあるんでしょうか。

(水野教育長)

現段階で何か私の方から、「こうなれば、こうである。」と公表できるものはないかと思っております。

ただ、そのあたりの現場の声をしっかり受け止めていきつつ、団体規約にあるところをどういう形で柔軟に検討いただけるか、今はそのステージにありますので、その予算の面などは、現段階ではお答えしかねるところです。

(共同通信)

下見の需要が高まるのが、おそらく年度末頃かなと思います。半年前が今迫っている中で、残された協議できる時間が少なくなっていると思いますけれども、どのあたりまでに、ある程度のめどを立てたいと考えておられますでしょうか。

(水野教育長)

早い学校でしたら、意向調査を見る限り、4月の来場予定の学校もございます。そう考えると、仮に4月の頭に下見ができて、それは果たして下見として適切なタイミングなのかというところもあるので、開会后、どういう形で来ていただけるかというところをイメージすれば、やはり議論としましては、年明けぐらいのイメージで我々は要望していき、その内容を見つつ、3月までにこういう形になりましたというイメージではあります。

しかし、これは相手さんのあることですので、我々から一方的にスケジュールを示すのは難しいかなとは思っています。